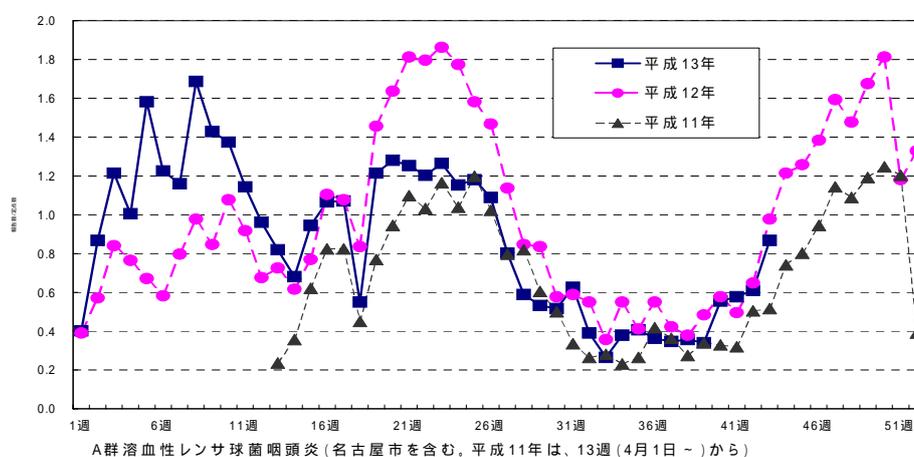


愛知県感染症情報

平成 13 年第 43 週（10 月第 4 週）

（コメント）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び水痘が流行し始めたので注意してください。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。



（定点の先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ マイコプラズマ肺炎 10 歳男
（木曽川町 さかたこどもクリニック）
- ・ O148 の 3 歳女、O152 の 7 歳女、O1 の 15 歳女、O18 の 33 歳男、
O78 の 51 歳女

パラインフルエンザは検査しなかったものを含めて考えると 20 名以上だと推測しております。

（尾西市 城後小児科）

- ・ マイコプラズマ肺炎 5 歳男
（師勝町 師勝クリニック）
- ・ 病原性大腸菌 ETEC O25 検出されました。81 歳女
（春日町 丹羽医院）

- 尾張東部地区

- ・ 嘔吐の強い胃腸かぜがはやりはじめました。仮性クループもみられる様になりました。カンピロバクター 1人、病原性大腸菌 O1 1人。
(犬山市 武内医院)
- ・ 仮性クループ多し。咽頭結膜熱 アデノチェック (+)。マイコプラズマ様気管支炎目立ってきました。
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)
- ・ 溶連菌感染症、感染性胃腸炎が少し増加しています。喘息性の疾患も多くみられます。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ感染症が多く見られます(肺炎2歳男、9歳女)。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 乳児、学童でのマイコプラズマ感染症が目立ちます。その他目立った感染症は、今週は認められませんでした。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ まだ、異型肺炎多い
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ ムンプスが再び流行しはじめました。
(春日井市 かちがわ北病院)

- 西三河地区

- ・ カンピロバクター 6歳男
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O1 VT 1・2 (-) 7歳、13歳女
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ サルモネラ菌 1歳
(幸田町 とみた小児科)
- ・ SSSS(ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群) 3歳男
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O6 感染症(VT陰性) 68歳女
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 直径2~3ミリの紅斑が四肢に強く、全身、顔にも出現する無熱性のウイルス発疹症?が、8ヶ月男児と2歳男児にありました。
(西尾市 こどもクリニック宮地医院)

- ・ マイコプラズマ肺炎 3歳女、サルモネラ腸炎 07 36歳女
(西尾市 山岸クリニック)
- 東三河地区
 - ・ サルモネラ09 5歳男。症状軽く、4～5日にて軽快。(豊橋市在住)。伝染性紅斑、兄弟例(田原町在住ではありません)。
(田原町 かわせ小児科)

(1～3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名

- ・ 西尾保健所から報告の4歳女。10/22発病、10/23初診、10/27診定。菌型は0157 VT2(+)

細菌性赤痢患者3名

- ・ 豊橋市保健所から報告の24歳男。10/22発病、10/23初診、10/26診定。菌型はフレキシネル 2a。
- ・ 刈谷保健所から報告の24歳男。10/21発病、10/22初診、10/24診定。菌型はゾンネ 相。台湾渡航歴あり。
- ・ 刈谷保健所から報告の20歳女。10/25初診、10/27診定。菌型はゾンネ 相。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

アメーバ赤痢患者1名。

ツツガ虫病患者1名

第41週(10月8日～10月14日)の4類感染症の全国状況

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べやや多くなっており、今後年末のピークに向け患者数の増加が予想される。流行性耳下腺炎は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(5.4)、沖縄県(4.2)などである。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数7.0と多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

(厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001年9月7日号（76巻36号）

多剤耐性結核菌。近年の北米、西欧、ラテンアメリカにおける多剤耐性結核菌の蔓延と死亡例の増加が注目されている。抗多剤耐性結核菌剤の普及について（高価であることが一番の問題となっている）、WHO、国境なき医師団、ハバト大学など国際的な組織で結核対策が進められている状況と今後の方針がここではまとめられている。

ポリオ。2001年8月までの世界各国のWHO届出数。ポリオウイルス野生株が分離された急性弛緩性麻痺患者の報告数は2000年で723例。アンゴラ（55例）、コンゴ（22例）、コンゴ共和国（28例）、ナイジェリア（28例）、アフガニスタン（27例）、パキスタン（199例）、ソマリア（46例）、インド（265例）、ネパール（4例）が目立つが南北アメリカや欧州地区、本邦を含む西太平洋地区では野生株によるポリオ発生はみられていない。

インフルエンザ：ニュージーランド。本年8月。主流はA（H1N1）。Bが混在。他にオーストラリア、カナダ、香港で散発的発生しA型、時にB型が分離されている。

国際検疫病：2001年9月におけるペスト、コレラ、黄熱の県・郡別発生地区一覧。

8月31日 - 9月6日届出：コレラ：カメルーン、チャド、香港、ニュージーランド（輸入例）。

2001年9月14日号（76巻37号）

黄熱：象牙海岸。同国厚生省は抗体検査確認例20例を含む128例（死亡14例）の発生を報告。旅行者は黄熱ワクチン接種が義務づけられている。

レジオネラ症：ノルウェー。7月26日 - 9月4日までに19例（検査室診断確定例17例）の報告がオスロ市当局にあり、地域的に限られた発生で、冷却水供給施設や公園の噴水などの検索が進められている。

コレラ：カメルーン。158例（死亡3例）、チャド。3,537例（死亡113例）

髄膜炎菌髄膜炎：アフリカの髄膜炎菌ベルトの2001年の状況（注：アフリカのサハラ砂漠南縁諸国は世界的な髄膜炎菌の常存地となっている。

- もう一つの常存地はブラジルである - 。毎年小児を中心として髄膜炎菌感染症が多発し死亡率も高率であるが、成人の無症状の菌保有者による海外への伝播、とくにイスラム教徒のメッカ巡礼者のアラビアへの持ち込みとメッカ巡礼後の北米や西欧への持ち込みが世界的に問題となっている。本報は髄膜炎菌ベルト諸国：ベニン、ブルキナファソ、中央アフリカ、チャド、エチオピア、ニジェール、における2001年の週別届出状況と死亡数、地域分布の地図がまとめられている。上記6ヵ国以外にも多発国はあり、流行開始と同時にワクチン接種が実施されて対策が進んでいる地区もあるがワクチン接種実施状況や有効性調査など基本的な資料収集にも問題が多い。

9月7日 - 9月13日届出：コレラ：ブルキナファソ、香港、韓国。

平成13年11月1日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝夕の通勤電車を待つ駅のホームでは風が冷たいのに午後の授業の教室は暖かくて居眠りしている学生が多い温度差の大きな毎日です。ご多忙のところ、いつも貴重な情報を有難うございます。10月前半～後半のまとめをお送りします。

1．名古屋市内：第一日赤有吉先生からは麻疹（散発例、入院目立つ）、無菌性髄膜炎、溶連菌感染症、感染性胃腸炎が目立つ、三菱病院岩間先生からはムンプスが目立ち肺炎、感染性腸炎（病原性大腸菌O1、O26、O153、カンピロバクタ-）が目立つ、労災病院山田先生からはムンプス、溶連菌感染症、感染性胃腸炎（カンピロバクタ-、サルモネラ、病原性大腸菌、マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症（重症で要入院例あり）、ギランバレ-症候群、ウイルス性胃腸炎、仮性クル-ブが目立つとのお手紙をいただきました。

2．尾張地区：江南市昭和病院西村先生からはムンプス、マイコプラズマ肺炎が目立つ、常滑市民病院上田先生からは麻疹（要入院例目立つ）、水痘、ムンプス、手足口病、細菌性胃腸炎（サルモネラ）、単純ヘルペス口内炎の入院例、マイコプラズマ感染症、ヘルパンギ-ナによる食欲不振と脱水で入院した例ありとのお手紙でした。

3．三河地区：トヨタ病院木戸先生からは外来では咳の子供が目立ち病棟では喘息の子が多い、岡崎市民病院系洲先生からはムンプスが目立つ、知立市近藤先生からはマイコプラズマ肺炎・気管支炎が散発中で感冒性下痢症発生、碧南市永井先生からはムンプスと伝染性紅斑が散発中、豊橋宮澤先生からはムンプスと水痘、溶連菌感染症などが散発中とのお手紙をいただきました。有難うございました。